

各地区業況アンケート結果（2020年10月調査分）

（2020年10月27日）

全国鉄鋼販売業連合会

9月18日締切で、当会役員141名に対しこのアンケートを行ったところ76名の回答があり（回答率53.9%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※ $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、(数は回答実数)

1. いまだ8割弱の企業が前年割れ

問1】貴社の9月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	2	2	13	11	47	75	74
比率	3%	3%	17%	15%	62%	DI-132	DI-139
売上金額/前年同月比	2	4	11	11	48	76	75
比率	2%	5%	15%	15%	63%	DI-130	DI-152

2. DI値若干プラスに転じる

問2】貴社の9月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	11	14	23	20	7	75	75
比率	15%	19%	30%	27%	9%	DI+3	DI-60

3. 低調のまま推移

問3】貴社の営業窓口から見て10月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		10	25	19	4	58	-29	-45
民間建設向		9	27	18	9	63	-43	-57
自動車向	1	5	18	9	2	35	-17	-22
その他需要家向		11	27	18	6	62	-31	-47
仲間取引	1	5	34	20	7	67	-40	-48
計	2	40	131	84	28	285	-34	-46
比率	1%	14%	46%	29%	10%			

4. 先行きも盛上る気配なく低調

問4】貴社における向う11月から1月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	2	17	35	11	9	74	72
比率	3%	23%	47%	15%	12%	DI -11	DI -3

5. 鋼板類の在庫調整進む

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	品種別	A	B	C	D	E		10月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	DI
-31	-27	-34	-9	-21	-25	-31	-32	-38	-24	-25	-4	0	鉄筋用丸鋼	2		21	4	1	28	-7
-29	-28	-25	-21	-29	-17	-27	-32	-26	-35	-38	-17	-15	構造用丸鋼		1	20	3	1	25	-16
-10	-12	-6	-15	-12	-6	-17	-26	-23	-25	-23	-14	-9	平角鋼			29	2	1	32	-13
-29	-18	-13	-6	-16	-30	-13	-31	-30	-20	-19	-4	-3	H形鋼		3	26	3		32	0
-26	-11	-19	-22	-16	-28	-36	-29	-38	-38	-41	-33	-29	コラム		1	17	6		24	-21
-24	-16	-17	-22	-16	-17	-18	-16	-24	-34	-29	-14	-12	小形山形鋼			30	3		33	-9
-29	-21	-22	-29	-30	-24	-24	-25	-33	-30	-26	-10	-12	中形山形鋼		1	28	3	1	33	-12
-26	-29	-19	-26	-26	-20	-24	-32	-39	-40	-27	-18	-12	溝形鋼		3	23	5	1	32	-13
-34	-30	-31	-29	-26	-20	-24	-18	-21	-30	-27	-27	-17	軽量形鋼C形			24	5	1	30	-23
-25	-16	-15	-18	-26	-15	-15	-17	-26	-21	-25	-25	-16	軽量形鋼広巾			15	3	1	19	-26
-58	-53	-53	-47	-61	-58	-58	-71	-65	-70	-57	-58	-41	冷延薄板		5	19	4	1	29	-3
-50	-56	-60	-47	-55	-55	-56	-73	-58	-71	-64	-54	-35	熱延薄板		6	21	4	1	32	0
-68	-59	-53	-52	-63	-68	-66	-76	-64	-62	-53	-57	-34	表面処理鋼板		7	22	1	1	31	13
-57	-53	-56	-58	-64	-65	-70	-85	-77	-78	-80	-67	-47	酸洗鋼板		10	20	2	1	33	18
-47	-51	-50	-48	-56	-51	-49	-64	-61	-71	-46	-49	-22	中板	1	7	31	1	1	41	15
-45	-51	-49	-49	-49	-44	-63	-63	-72	-60	-46	-52	-41	厚板		1	32	2	1	36	-8
-20	-28	-22	-32	-29	-47	-50	-26	-25	-29	-29	-42	-40	極厚板			17	2		19	-11
-29	-27	-21	-23	-25	-18	-20	-32	-21	-33	-26	-24	-21	縞板		1	24	4		29	-10
-31	-30	-28	-27	-28	-32	-30	-39	-38	-45	-36	-33	-26	中径角			29	5	1	35	-20
-25	-15	-19	-5	-18	-20	-20	-24	-27	-21	-22	-23	-19	ガス管黒			28	6	1	35	-23
-22	-16	-17	-5	-17	-21	-20	-27	-27	-23	-29	-19	-18	構造用鋼管			28	4	1	33	-18
-34	-31	-30	-28	-33	-32	-35	-40	-41	-41	-37	-31	-22	計	3	46	504	72	16	641	-8

6. 需要少ない中、メーカー値上げで厳しい状況

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	(異形棒鋼) 北海道でいう中央圏の大型物件は最盛期になっている。現物の準備にかなりの労力を要す。価格も上昇、強含み。
	B	(形鋼) 今月は最盛期として期待しているが、今のところ盛り上がり様子が見られない。今月より値上げ唱えを開始するが、需要家の反応は鈍い。
	C	商いは月を追うごとに萎んできている。引合いも激減している。冬の時代の到来なのか。
東北	A	少ない需要の中、メーカー値上げのより更に厳しい。
	B	丸棒の受注、出荷は不調。H形鋼の一次加工が好調。
	C	全般的に減少。下降傾向にあり、見積も案件も微減。案件が少ないため、価格は下降と競争が激しくなっている。一方、メーカーは値上げの方へと向かっており、調整が厳しい状況。
	D	下期以降の新規案件が少ない上、価格転嫁も思うように出来ない。ますます厳しくなるのでは。
新潟	A	10月に入り、値上げの知らせを聞かない日はない。採算が合うように足並みをそろえていきたい。「仕事がある」とは言い難いが少しは戻っている感がある。
	B	秋口に入り、コロナ禍の影響がはじめてきている。機械、建築、設備投資の延期など徐々に影響が出てきていると感じる。
	C	引合いの少ない中でも適正価格での販売に努めていきたい。
	D	予定している物件は出始めているが、物件のボリュームは小さく、数も少ない中、メーカー値上げの発表があり、非常に厳しい。
	E	車関連は90%程度復調、建機は小型以外にも動きが見られるようになった。地場製品は家庭用品の一部を除き低位安定。
	F	コロナ禍の中、経済活動も正常化しつつある。しかし、設備投資については皆慎重になっている。必要な中の値上げがどこまで浸透するのか。顧客へ丁寧に状況を説明していくしかない。
	G	9月は稼働日も多いので荷動き復調を期待したが、製造業向けは大きく需要が増えることなく横這いであった。復調になるまでにはもう少し時間がかかりそうである。建築需要は県内物件が少なく、特に中堅以下のファブで受注量に不足感がある。
神奈川	A	まだまだ需要の回復は厳しい状況に感じられるが、一部の需要家からは11~12月頃に新規案件も出てくるような話もある。
	B	工作機械向けの引合いが少なくなっているため、3ヶ月先の状況は不透明になっている。公共建設、民間建設も落ち着いてきているので、来月以降の見通しは不透明な状況である。
	C	高炉メーカーがタイトになっているも厚板の受注環境は変わらず低調。業界によって濃淡があり、値上げも表明し価格転嫁は厳しい。
東京	A	設備投資に対するブレーキを解消する政策をお願いしたい。ミルシート問題よりも景気策を問う事が全鉄連の仕事ではないか？
	B	表面処理鋼板はメーカーからの入荷が遅れてタイトになっている。値上げも実行されているので大切に売る。
	C	(鋼管) 絶対的には、まだ低い水準ながら4~6月比出荷増。メーカー値上げ発表、市中在庫の過剰感後退、公共工事(国土強靱化)増加など光明が差してきた

東京	D	6～8月がコロナ禍での落ち込みのボトム。9月は対前年に及ばないものの回復の兆し。10月に入り、徐々に引合いが活発になってきたが数字はついていない。引き続き、雇用調整金を申請中。
	E	前月比、前年同月比同様に2ヶ月連続で落ち込んでいる。生産機械関連と車両関連の取引先の需要の低調が続いている。今月から雇用調整に入り、状況に応じて社員を早退勤務させている。
	F	コロナの影響により設備投資が減少、それにより機械受注も減少。特に建産機への影響が大きく、非常に厳しい状況である。
	G	タイトな状況が続いている。メーカー値上げの転嫁に動いていきたい。
	H	9月～10月と実需の増加を肌で感じることはできなかった。仲間、流通間でばたばたしている感が否めない。
	I	(需要家の動向)自動車関連は回復しつつあるが、他の業種は相変わらず低調。特に建築の落ち込みが大きい。物件の取り合いが激しく鉄骨価格も大幅に下落している。動いているのは物流倉庫のみ。薄板については、メーカーの減産効果もあり、在庫調整が進んでいる。一部歯抜けも見受けられ、先高感もあり、仮需が発生している。ただ需要面の回復は期待できず、メーカーの減産の継続を願うばかりである。いまだに雇用調整助成金を受けたり、休業を増やしてる企業が多く、本格的回復には程遠い。
静岡	A	建築関連は上位グレードに物件が集中し、年内の稼働率は高い。しかし、中小案件は少なく、ユーザー格差が広がっている。メーカーの値上げアナウンスが続いているが、当面、転嫁は厳しい状況。先行き不透明感が拭えなければ、値上げと受け入れられない。
	B	Mグレードファブに10月建て方の地場工務店の物件を依頼したところ10月の工程に余裕ありとのこと。工務店からの指値も現状を勘案された金額でほっとした。やはり地場物件は双方ともに良い環境を作れると再認識できた。土木物件への材料供給(一次加工あり)、部品製作(機工)の案件が詰めに入っているが、施工場所へのアプローチが十分ではないので予算に限界はあるが、良い塩梅となるように鋼材単価値上げとともにユーザーには喜ばれる対応が必至である。来年の開催となった東京五輪、パラ五輪へのパッション、日本一の高層ビル建設発表、災害に打ち勝つインフラ強化および復旧事業などネガティブになる事由はないがコロナ禍の状況次第である。業界における不良債権の発生はないが、状況の変化に注視が必要である。大手流通のプライスリーディングプレス発表にメーカー、商社、大手ゼネコン各社の反応はどうか。建設業者の余裕に一石投じてほしい事由である。土木関連がいいと聞くが足を引っ張っているのではないか。再見積もり、新規案件とも増加傾向だが、価格引き上げをアナウンスし動いてほしい。
石川		コロナの終息は予想つかず。民間建設不況、もの造りの中でも当地は工作機械関連が多く、回復の見通しなし。但し、自動車関連は少し期待できる。官庁工事をどんどん出件してほしい。北陸地区は土木災害が少なく、国土強化対策の具体的物件が少ない。北陸新幹線延長を敦賀と米原間も復活させて中京地区との距離を短縮させること。その方が、効果が早く大きい。首都機能分散(特に官庁)のスピード感をあげること。
富山	A	公共事業関連は地元、関東向けともに低位安定受注をしている。中小民間向けは地域に関わらず減少傾向。メーカー値上げ、ユーザーコストダウンの狭間に入り、価格転嫁は難航し、量確保で更に品種問わず利益は減少している。

富山	B	当地区では、民間の新規案件が止まっている。厳しいの一言に尽きる。営業では、当然競合が激しく値上げの雰囲気どころか下をくぐる単価が次々となっている。観光、飲食への補助も必要だと思うが、公共事業の前倒し発注措置で景気の底上げがなければ秋の日も日本経済もつるべ落としになる。
岐阜	A	全体的に70%位の動き。しかし、内容は日々の通常品部門が50%位。他は「難・少・安」物件で穴埋めするが、この部門は手間がかかりすぎて逆に多忙。不況とは言え、先が見えないと多忙部門も人員が疲弊してくる。
	B	工作機械関連の需要動向は、中国の需要回復や来年の見込みの話が聞こえてくるようになった。メーカー値上げによる価格転嫁を進めていきたい。
大阪		例年10月、11月は秋需で販売は増加していくが、今年は鉄骨需要が低位なため中小物件も少なく販売は昨年に比べ減少する。価格はメーカーが強いため採算を考えると押し上げていかなければならないが、荷動きに迫力がなく、各流通とも大変苦戦している。
岡山		少し売上が戻ってきたようだ。休みにしていた鉄工所も動き出した。造船、自動車、下請けは変わらず。民間設備が少々戻っている。
香川		鉄骨中小物件は中止、延期、見直しなどで大幅に減少している。少ない物件を取り合って受注単価も下がり厳しい状況が続く。土木は底堅いようだ。予算もそれなりにしているが、H形鋼、形鋼を使用する物件が、どれくらい出るのか不明である。
北九州		建築、製缶、産機いずれも仕事量が少なく倉出しの扱い数量が増えてこない。10月契約もメーカーは強基調であり、流通も価格転嫁していかなければ苦しい状況。